



# WE 21 ジャパンたま ニュース

発行責任者/特定非営利活動法人 WE21 ジャパンたま 代表 鈴木久子

川崎市多摩区中野島 6-29 新多摩川ハイム 4号 101

TEL&FAX 044-945-2427 <http://www.we21japan.org/shoplist/tama>

本年度は予想もしなかったコロナウイルスの襲来により、ショップは4月から2か月間休業し、未だに1日4時間の短縮営業の状態です。今後の見通しも立たず、新年度の企画も立てられません。経済活動の停滞により、多くの方が生活の危機に直面していることは容易に想像できることです。勿論、私達の支援先の人々も例外ではありません。せめて、声なき声に心の耳を傾けて、動じずうろたえず、僅かずつでも支援の活動を続けお互いの生活の中に共生できる喜びを見つけていきたいものです。

## 2019年度 支援活動報告

### 海外支援

カンボジア(幼い難民を考える会)・・・¥180,000  
 アフガニスタン(ペシャワール会)・・・¥50,000  
 フィリピン(ベンケットグリーンアクション)  
 ……………¥100,000

支援総額 ……………¥330,000

### 国内支援

福島の子どものための保養活動等をすすめる  
 川崎市民の会……………¥100,000  
 花みずき(女性の自立支援とその子どもの保護)  
 ……………¥210,000  
 福島・二本松有機農業研究会……………¥50,000  
 かわさきの安全でおいしい水道水を守る会  
 ……………¥50,000  
 避難の協同センター…………… ¥91,005  
 食の安全・監視市民委員会…………… ¥10,000  
 日本有機農業研究会…………… ¥10,000

支援総額 ……………¥521,005

### 物品購入による支援

アジア学院(クッキー、人参ジュースなど)  
 ……………¥116,700  
 福島・二本松有機農業研究会(豆類)・¥78,200  
 かわさきの安全でおいしい水道水を守る会  
 (恵水)他…………… ¥15,450

支援総額 …………… ¥210,350

## 2019年度 事業報告

### WE ショップたまの事業

2019年度売上げ実績	4,006,730円
営業日数	252日
顧客数	5,177人
ボランティア延べ人数	1,135人
寄付品提供件数	1,396件

### NPO法人 WE21 ジャパンたまの事業

- WE 講座の開催 (2回)  
 5/19 「花みずき」女性の自立支援について最近の活動報告  
 12/9 「幼い難民を考える会」カンボジアの保育支援事業報告
- 支援先等の報告会 3/16 開催  
 「福島の子どもたちと共にかわさき市民の会」
- WE21 ジャパングループ企画への参加(学習会、フェスタ等)

## 2020年度 事業活動計画案

今年度はコロナウイルス感染症防止により人が集まっていた催しができず、年度の全般は計画を立てることが出来ません。後半も流動的ではありますが、恒例の企画は以下のように、可能な限り実施したいと考えています。その他の企画として、昨年好評だった「国産の有機大豆を食べよう会」や、「大人の手作り教室」等を考えていますが実施できるかは未定です。

月	WEショップたま 企画	NPO法人WE21ジャパンたま 企画
5月	・休業	・総会/書面決議による総会
6月	・営業再開(時短営業 12:00~16:00)	
7月	・食器一日半額セール	
8月	・夏の半額セール	
9月		
10月		・貧困をなくそうキャンペーン
11月		
12月	・冬の半額セール	
1月	・初売り	
2月		
3月		・3.11を忘れないキャンペーン

### 新支援先紹介



NPO法人WE21ジャパンたまは、昨年度初めて「避難の協同センター(東京)」への支援を行い、「3.11を忘れない」キャンペーン全品半額セールの売上金全額 91,005円を寄付しました。

#### 「避難の協同センター」代表世話人 松本徳子さんに聞く

この団体は福島第一原発の事故により、自主避難した方達が、災害救助法による住居提供の打ち切りが2017年3月と決定されたことを受けて、2016年7月に設立されました。事故の収束もない中、住宅提供、補助金制度は次々となくなり、避難者は孤立、貧困に追い込まれ声を挙げることもできず、自己責任とされ、更には地元福島から追い出し訴訟をおこされる現状があります。その中で私達避難者は住まいがいかにか生活の基盤になるかを知りました。センターの支援は全国に散らばった避難者を対象にして、困窮に直面した方々の生活全般の手助けをしています。

しかし、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言以後は、センターとしての動きが停滞するようになりました。この事態によって避難者の暮らしが酷くなっているのではと思っています。この為、同様の二つの団体と共に、緊急のアンケート調査を5月から始めました。生活や住居に関して困っている状況を集約し、今後必要な支援に活かして、更に国に施策を訴えるための資料として活用する予定です。今は少しずつでも避難の協同センターとしてできる事を行っていく所存です。

WE21ジャパンたまからの貴重な支援金は引越費用、それに伴う初期費用として避難者の方々に使わせていただいています。今後ともご支援頂ければと存じます。